

内閣総理大臣杯 平成29年度 日本卓球リーグ

内閣大臣総理杯平成29年度日本リーグプレーオフ

グブレーオブJTTLファイナル4

JTTLファイナル4が、12月9～10日まで、厚木市民体育館で行われた。

12月9～10日 厚木市民体育館



開会式後、選手らの応援に決意、選手の間には緊張が伝わってきた



勝たなくともプレーは全力



4代平野(左)・菅原(右)が対戦

「試合は緊張感を持って臨む。自分自身で勝つために、練習で培った技術を最大限に発揮したい。試合中も集中力を切らさず、最後まで全力で戦いたい。」



今大会で団体戦の経験が活きてくる日本選手(菅原の選手は)も注目されるゲームが待っている



「試合は緊張感を持って臨む。自分自身で勝つために、練習で培った技術を最大限に発揮したい。試合中も集中力を切らさず、最後まで全力で戦いたい。」



「試合は緊張感を持って臨む。自分自身で勝つために、練習で培った技術を最大限に発揮したい。試合中も集中力を切らさず、最後まで全力で戦いたい。」

女子シングルス(女子生会)

女子は、前年度のアスモ、後年度のサンリツ、総合3位の日本生命、総合4位の中国電力が出場した。

初戦で、アスモがサンリツに3対1で勝利すると、もう一方の試合は中国電力と日本生命が対戦。中国電力が、トップとダブルスを奪い、勝利に近づくと、日本生命が4、5局と押寄せ、追い込んだ。準決勝は、日本生命が総合力の差を見せ、サンリツに勝利し決勝に進出。

決勝はアスモと日本生命が対戦。トップで前田(日本生命)が知覚性を前面に出したプレーと速攻プレーで先取点を奪い、準日本生命が1ゲーム目を奪うも返したプレーで勝利する。ダブルスは差となりが田代・前田が今大会初勝利をあげゲームの真諦を決めた。



前田、勝、両チームの選手が全力とむかっゲームを交わした。この試合も勝利し、準決勝の経験も積みたい



日本生命の選手が全力で戦った



前田(左)・菅原(右)が対戦

「試合は緊張感を持って臨む。自分自身で勝つために、練習で培った技術を最大限に発揮したい。試合中も集中力を切らさず、最後まで全力で戦いたい。」



土田(左)・菅原(右)が対戦



日本生命の選手が全力で戦った

「試合は緊張感を持って臨む。自分自身で勝つために、練習で培った技術を最大限に発揮したい。試合中も集中力を切らさず、最後まで全力で戦いたい。」



大会の勝利を祝う方々から一人選ばれる「最優秀選手」。最優秀選手(左)が選ばれた



「選手がよく頑張ってくれたのはもちろん、会社や支店が大変です。今大会もたくさんの方が応援してくれました。いつも感謝しています」と選手



高木(左)・菅原(右)が対戦



高木(左)・菅原(右)が対戦



高木(左)・菅原(右)が対戦



高木(左)・菅原(右)が対戦



高木(左)・菅原(右)が対戦



高木(左)・菅原(右)が対戦



男子シングルス(男子生会)

男子は、前年度の東京アート、後年度の菅原の選手がサンリツ、総合3位のシチズン、総合4位のリコーの4チームが出場した。

初戦で、東京アートが菅原の選手に勝利し、早々と決勝進出を決める。シチズンは、リコーに勝利するも、準決勝で菅原の選手に敗れ、決勝は再び、東京アートと菅原の選手の試合となった。

菅原の選手は、初戦とオーダーを替えて決勝に挑み、トップで上田(菅原の選手)が圧倒的なゲーム運びで、白田に勝利すると、今大会初出場の菅原(菅原の選手)が、高木に勝利し王手をかける。ダブルスはシーズンゲームとなるが、上田・菅原が真諦を決め、2年連続2回目の優勝を決めた。

敗れた東京アートだが、高木和5が気持ちの入ったプレーをみせた。

男子A	
東京アート	3-1 菅原の選手
01 高木和早	8-7-4-5-10
02 菅原の選手	4-7-7-8
03 菅原の選手	-14-3
04 菅原の選手	5-8-10-7

男子B	
シチズン	3-2
1 菅原の選手	4-10-4
02 菅原の選手	5-8-7-10-9
03 菅原の選手	-4-11
04 菅原の選手	3-9-4-4
05 菅原の選手	4-8-15-8

男子C	
菅原の選手	3-1
01 上田仁	3-8-7
02 菅原の選手	6-4-4-4
03 菅原の選手	8-8
04 菅原の選手	5-7-13

男子D	
菅原の選手	3-0
01 上田仁	8-8-4
02 菅原の選手	4-8-4
03 菅原の選手	7-4-8